



題字は達増知事

平成19年12月号

発行所

社団 岩手県畜産協会

〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込389番7

☎ 019-694-1300(代)

FAX 019-694-1305

Internet Address <http://iwate.lin.go.jp>E-Mail Address info@iwate.lin.go.jp

(定価110円)会員の購読料は会費に含まれる

印 刷 小松総合印刷会社



自信と誇りを持ち、夢を持てる産業としての酪農

葛巻町長 鈴木重男

葛巻町は、山間高冷地で気象条件も厳しく、稲作等の実取り農業が不安定な地域であるため、明治25年にホルスタイン種が導入され、以来これまでその歴史は115年の時を刻み、多くの先人たちのたゆまぬ努力により着実に進歩・発展し、今日の酪農の町が築き上げられております。

昭和50年から進められた広域農業開発事業により、146億5千万円の巨費と8年間の歳月をかけ、草地開発を始めとする畜産生産の環境整備が行われ、その完成は当町の酪農を飛躍的に発展させ、現在（平成19年3月）の乳牛飼養頭数は10,414頭、酪農家戸数220戸、平均飼養頭数は47.3頭、1日に約115トンの牛乳が生産される名実ともに東北一の酪農郷となっております。

平成17年の当町の農業産出額は50億3千万円となっておりその内、乳用牛の産出額が40億1千万円と全体の80%を占め、一方、1日に生産される牛乳の約7割にあたる80トンが町内の乳業会社に供給され雇用の場の拡大にも繋がっているなど、町の産業は酪農に大きく依存しております。

昨今の酪農をめぐる情勢は厳しく、特に牛乳・乳製品の消費をめぐる環境は依然として楽観できない状況にあるほか、燃料用エタノール向こうもろこしの需要が大幅に増加し、輸入穀物價格が急騰するなど酪農家の負担は増加しており、

経営環境の悪化が避けられず、生産基盤の弱体化が懸念されます。

このような内外の諸情勢を踏まえ、引き続き当町の酪農が安定的・持続的発展を図るための対策が緊急の課題となっており、多様な生産条件を念頭に、粗飼料自給率の向上等の生産基盤の強化に配慮した対策及び、担い手・後継者支援等の体质強化を図るための対策を進めることとしております。

幸い、当町の酪農後継者は例年10名程度が就農しており、また、次の代を担う酪農家後継者で結成されている「CO・Wボーズ」や、次の世代を担う酪農家の小・中学生で構成されている「葛巻ジュニアホルスタインクラブ」の活動・活躍は頼もしいものがあり、このことは、当町の酪農が町の基幹として、産業として成り立っているからであると思われます。

私は、これまで全てにおいて、「夢しか実現するものはない、問題解決の糸口は必ずある、ピンチは大きく伸びるチャンス」と考え取り組んで参りました。課題解決に新たな決意をもって取り組み、今後とも、安全・安心で高品質な牛乳を消費者に提供し、農家が職業としての酪農に対して自信と誇りを持ち、夢を持てる産業として発展させていきたいと考えております。

関係者、関係機関、団体の皆様の一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

畜産春秋

もくじ CONTENTS

畜産春秋	1	「ミルクフェアー2007いわて」に大勢の参加者	8
第51回岩手県畜産共進会肉牛の部	2	畜産の研究	9
農用1歳馬共進会	3	家畜の保健衛生	9
平成18年度診断事例から見た経営の現状と今後の課題	4	平成18年度岩手県去勢若齢肥育牛生産費	10
平成18年度岩手県獣医産業業績発表会	6	現地情報・ティータイム	11
参観デー2007	7	いわて食と観光フェスタ2007開催	12
この冬注意したい家畜の管理	8	子牛市場及び家畜市場成績	12

第51回 岩手県畜産共進会 肉牛の部

名誉賞に「昌北美津」号

盛岡市玉山区 中村 鉄男さん

中村鉄男さんに名誉賞を授与

第51回岩手県畜産共進会（本会主催）「肉牛の部」が10月20日(株)岩手県畜産流通センターで開催されました。出品頭数は前年と同じ120頭（去勢69頭、雌51頭）で、(社)日本食肉格付協会岩手事業所神邊健一所長を始め4名の審査員が枝肉審査を行い、入賞牛が決定されました。

本年度の枝肉成績は上位等級（4等級以上）の頭数割合が68.3%（前年69.2%）、平均枝肉重量が去勢479kg（同479kg）、雌401kg（同384kg）、ロース芯面積去勢60cm、雌59cmと肉量、肉質とも前年を上回る良好な成績でした。

その後に開催された第32回「いわて牛」産地和牛枝肉販売会（全農岩手県本部主催）には前年度並の22社（県外18社、県内4社）がせりに参加し活気ある取引が行われました。

枝肉単価は去勢が2,200円（前年2,322円）、雌が2,113円（同2,317円）といずれも5年連続で2,000円を超える高値となりました。

なお、名誉賞の昌北美津は枝肉重量474kg、枝肉単価3,626円で販売金額は171万8千円。

審査講評で神邊所長は和牛の去勢については「(1)全体的に枝肉重量が大きくなってきており、



500kgを超えるものが全体の39.1%を占めていた。(2)ロース芯もバラの厚みも大きくなってきておりBMSも6.4と改良の効果に加え肥育技術の向上がうかがえる。(3)枝肉のつり合いがよく肉量の充実が見られ胸最長筋や特にバラの厚さが充実。一部に枝肉の厚みに欠け、皮下、筋間脂肪過多が見られ惜しまれる。(4)去勢牛で見ると枝肉重量が全国平均より25.5kg多く、4・5等級の上物率も71.0%（全国51.1%）と全国平均を大きく上回っており岩手の肉用牛は全国トップレベルであることがあらためて証明された。」と講評しました。

また、主催者挨拶（本会山下副会長）や県畜産課樋沢総括課長を始め来賓の方々の祝辞でも述べられたとおり「和牛改良と飼養管理技術の向上による畜産岩手の産地確立」確認し合いました。

記念すべき第51回岩手県畜産共進会は、肉牛の部を最後に大きな成果を収め盛会裏に終了しました。

枝肉販売会実績

(1) 入賞者

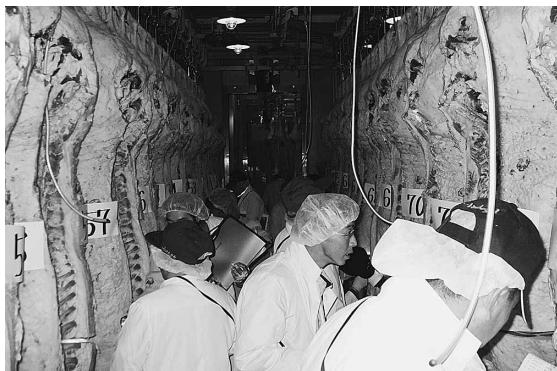
入賞	農協名	氏名	販売成績			
			性別	枝重	単価	販売価格
名誉賞	新岩手	中村鉄男	去	474	3,626	1,718,724
1等賞 1席	新岩手	滝沢卓	去	560	2,700	1,512,000
1等賞 2席	いわい東	まる谷農牧	去	521	2,571	1,339,491
1等賞 3席	岩手南	阿部康治	去	526	2,524	1,327,624
1等賞	いわい東	小山平治	去	498	2,560	1,274,880
1等賞	いわい東	米倉稔	去	464	2,568	1,191,552
1等賞	新岩手	岩崎清正	去	550	2,278	1,252,900
1等賞	花巻	阿部久穂	去	484	2,323	1,124,332
1等賞	岩手ふるさと	渡辺悟	雌	387	3,090	1,195,830
1等賞	岩手ふるさと	渡辺静雄	雌	402	2,715	1,091,430

オガクズおよび杉皮粉碎

気仙郡住田町上有住字山脈地21 (有)菊池製材所 TEL. 0192-48-2528 FAX. 0192-48-3261

入用の方は、下記あてご連絡をお願いします。
価格、運搬方法についてのご相談に応じます。
なお、杉皮粉碎は格安でお譲りします

枝肉を慎重に審査

名賞
昌北美津の枝肉

(2) 販売成績

	頭数	枝肉重量	販売単価	販売金額	前年比較
雌	51	400.9	2,113	847,403	-43,419
去勢	69	478.8	2,200	1,053,529	-57,925
計	120	445.7	2,167	965,926	-53,598

(3) 格付比率 (%)

	5等級		4等級		3等級		2等級	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
雌	15.7%	26.0%	49.0%	30.0%	33.3%	32.0%	2.0%	12.0%
去勢	34.8%	34.3%	36.2%	44.3%	20.3%	20.0%	8.7%	1.4%
計	26.7%	30.9%	41.7%	38.3%	25.8%	25.0%	5.8%	5.8%

名賞に佐々木さん(遠野市)

農用1歳馬共進会

盛岡畜産農協主催の「第66回農用1歳馬共進会」が10月5日花巻家畜市場で開催されました。

この共進会は農用馬の生産振興を目的に15頭が出品され、雄・雌部門ごとに体型、資質、調教状況等を審査した結果、名賞(雌馬のみ)に遠野市の佐々木利見さんの「旭弥」が輝きました。佐々木さんは昨年に続いての名賞獲得です。

■雌の部

褒賞	入賞等級	馬名	品種	毛色	生年月日	出品者住所氏名
雌の部	名賞	旭 弥	日本輓系種	栗	18.3.3	遠野市 佐々木 利見
	金賞	第十昇花	日本輓系種	鹿	18.3.25	滝沢村 大坪昇
	銀賞	零	日本輓系種	栗	18.7.8	盛岡市玉山区 中島秋雄
	銀賞	前 霧	日本輓系種	栃栗	18.7.15	盛岡市玉山区 前川一夫
	銀賞	吉田姫	日本輓系種	黒鹿	18.4.4	八幡平市 吉田与次郎

■雄の部

褒賞	入賞等級	馬名	品種	毛色	生年月日	出品者住所氏名
雄の部	金賞	第二栄駒	日本輓系種	鹿	18.3.10	滝沢村 大坪昇
	銀賞	嚴 竜	日本輓系種	鹿	18.3.2	遠野市 菊池勇

審査講評(本会山下副会長)で「隅々まで管理の行き届いた馬が揃った。各部の均称と深み長さをさらに充実させて欲しい。」と励ました。

出品馬の側尺値は平均で雌が体高158.3cm、胸囲205.3cm、管囲24.1cm、雄は体高163.0cm、胸囲209.8cm、管囲25.1cmであった。

雄雌とも実馬体型標準を大幅に上回っていました。

特に馬体を支える上で重要な要素である管囲は雌・雄共大格標準値であり、申し分なく、いずれも馬体の手入れ、肢蹄の管理が良好で、日頃の飼養管理の良さがうかがえました。

引き続き行われたせりには1歳馬を中心に82頭が上場され、最高値は日本輓系種の2歳馬が867,000円で取引されました。



名賞遠野市の佐々木利見さんの「旭弥」



ご宿泊・ご宴会にご利用下さい。

くすまき交流館 プラター

TEL. 0195-66-0555 FAX. 0195-66-0511

くすまき高原牧場

乳製品の自宅宅配承っております。

ミルクハウスくすまき

TEL. 0195-66-0030 FAX. 0195-66-0031

社団法人 葛巻町畜産開発公社

<http://www.kuzumaki.jp>

風車が回る高原の焼肉レストラン

レストハウス袖山高原

TEL/FAX. 0195-68-2010

〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125

TEL. 0195-66-0211 FAX. 0195-66-0755

平成18年度診断事例から 見た経営の現況と今後の課題

肉用牛部門

1. 本県の一般的動向

- ・平成19年2月1日現在の飼養戸数は8,330戸。前年に比べ450戸(5.1%)の減。飼養者の高齢化等から飼養中止があったため。飼養頭数は107,800頭。4,600頭(4.4%)増加している。
- ・1戸当たり飼養頭数は12.9頭(全国30.7頭)で前年に比べ1.1頭(9.3%)の増。
- ・子牛出荷頭数は、黒毛和種が平成7年から13年まで減少、14年には対前年3%余り増えたが、15年から再び減少、18年は24,925頭(対前年102.9%)。日本短角種は平成7年以降急激に減少、18年も対前年6.0%減の1,593頭。
- ・黒毛和種の子牛販売価格は491,124円で対前年103.1%の高値、短角種の純粹種は対前年106.6%の234,975円、短黒交雑は対前年105.1%の256,298円。
- ・平成15年以降子牛市況が高騰、繁殖経営には優位、肥育経営は枝肉市況が堅調であったものの、素牛高による収益性の影響がみられる。
- ・公共牧野を活用した生産体系と増頭の取り組みが進み、中規模以上の経営体においては早期離乳による生産性の向上と省力管理を図るため搾乳ロボットの導入も増える傾向にある。
- ・黒毛和牛において、増頭を目的として放牧を取り入れる傾向が中山間地だけではなく平地でも見られ、また休耕田等における電気牧柵を活用した水田放牧が普及している。
- ・自給飼料の生産では牧草の作付けが多いが、畠畔草利用も依然として多い。デントコーン作付けは減少し、牧草及びソルガムの作付けが増え、稻ワラにあっても、年々確保が厳しくなる状況にある。

2. 生産に関わる課題

- ・全国的な傾向と同様、高齢化と後継者の他産業への従事が進み飼養戸数、労働力が年々減少。繁殖牛の小規模飼養層の経営中止等が依然とし

て進んでいるが、中核層の規模拡大により減少に歯止めがかかりつつある。

- ・経営の記録・記帳が不十分で問題点の把握及び生産経営の改善向上につなげていない事例が多い。
- ・日本短角種は、飼養者の高齢化など生産基盤が弱体化してきている。

一方、生産技術の向上や生産対策、“自然・安全・安心”を目標とした販売促進等に取り組んでいるが、依然として戸数、頭数の減少に歯止めがかからない状況である。また、短角種から黒毛和種へ切り替える傾向も見られ、短角牛主産地においても顕著である。

3. 診断結果

分析した経営は29(繁殖経営24・肥育経営5)で大部分が黒毛和種。技術水準を中心に全国先進事例と比較したのが表1、表2で、その結果を要約すれば以下のとおり

(1) 繁殖経営

- ・常時飼養頭数は最少3.9~最多52.7頭、平均では県平均を上回る21.8頭。
- ・子牛の生産率82.0%、年間子牛販売頭数は14.0頭で常時飼養頭数に対し64.2%。分娩間隔は前年より0.4ヶ月長い13.2ヶ月である。

表1 繁殖経営

区分		18年	17年
常時飼養頭数	頭	21.8	18.0
年間子牛出産頭数	頭	0.82	0.81
年間子牛販売頭数	頭	14	13.6
分娩間隔	ヶ月	13.2	12.8
雌	販売金額	円	442,023
	販売時体重	kg	265
去勢	販売金額	円	551,641
	販売時体重	kg	294

(2) 肥育経営

- ・肥育事例は殆どが水稻との複合経営で平均飼養頭数は65.8頭。
- ・肥育期間は去勢若齢が594.1日(19.8ヶ月)、雌若齢が603.0日(19.8ヶ月)と前年に比べかなり長くなっている。出荷体重及びDGを前年(去勢若齢)と比較すると、体重で65kg多いがDGは同じ。



母豚2,000頭の一貫経営

- ・良質豚ぶん堆肥の供給
- ・徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給

「南山形養豚組合」

岩手町大字川口36-242-3
TEL. 0195-62-9087 FAX. 0195-62-9373

※精肉のご用命は岩手畜流会(食肉専門店)へ

- ・近年、従来の「肉質重視」から「枝肉重量と肉質重視」に替わり、格付等級だけでなく重量でも販売額を確保しようとする傾向が見られる。

表1 繁殖経営

区分		18年	17年
雌若齢	常時飼養頭数	頭	34.5
	年間出荷販売頭	頭	23
	肥育期間	日	603
	肥育終了時体重	kg	594
	DG	kg	0.541
去勢若齢	常時飼養頭数	頭	31.3
	年間出荷販売頭	頭	20
	肥育期間	日	594
	肥育終了時体重	kg	712
	DG	kg	0.691

(3) 生産技術面

- ・繁殖成績は受胎率と分娩間隔によって左右される。分娩間隔は13.2ヶ月と前年より長く、成績不振の経営体は受胎率が低く、発情等観察の不徹底や不十分な飼養管理、地域によっては適期受精の問題等、さまざまな要因があげられる。
- ・削蹄はかなり普及し、特に子牛は徹底されており、一部では除角も行われている。

また、子牛の育成技術にも差が見受けられ、特に、子牛の下痢等育成管理に十分留意する必要がある。

(4) 財務管理面

- ・繁殖事例は殆どが水稻を主体とした複合経営。収支がマイナスとなったのは①生産技術（特に飼養管理）が十分といえず、経営を把握するための記帳も不十分②販売時期の片寄りや販売頭数が少なく販売価格も低い、等が要因と考えられる。
- ・肥育事例は単年度経営収支でマイナスや財務基準によるCランク（肉牛所得で約定償還利息の一部しか支払えない）、さらにはDランク（肉牛所得で約定償還利息の一部も支払えない）の経営も見られるが、これらは①以前からの未払いなどが累積し固定化負債となった②急な増頭と施設投資で借入金が増えるとともに、飼養管理技術が低いためその返済に見合う収入が確保できない、等が要因となっている。

4. 考察

近年の肉用牛を取り巻く環境は、食の安全とそれを担保する肉牛トレーサビリティーの取り組み、適切な家畜糞尿処理への対応等、大きく変化している。これらの状況に加え、従前からの課題である高齢化、担い手不足による飼養戸数・頭数の減少のほか素牛高による肥育経営への影響、環境保全に係わる投資など厳しい経営環境が続いている。

(1) 繁殖経営では、半数以上の事例が記帳されていない。これは経営者が高齢者であることや複合経営であるため、費用区分等経理の煩わしさで対応できない、等が原因と考えられる。また、近年、高能力種雄牛の造成が全国的に進んでおり、本県でも高成績の種雄牛が作出されている。なお、県内で使用されている種雄牛の精液は県有牛が30.8%、家畜改良事業団が61.0%で約90%を占めている。経営者はこれらの成績や市場性に最も高い関心を示し、その確保や交配にのみ関心が向いて飼養管理が疎かになり受胎率が低下する傾向が見られる。ただし、高能力種雄牛の産子が市場評価や取引価格においても高いことから、生産意欲につながっている面もある。

(2) 黒毛和種においても中山間地だけでなく平地でも放牧を取り入れる傾向が見られる。自給飼料は牧草、デントコーンが多く、ロールラップサイレージは小型機械の普及もあり、小頭数規模層まで普及している。また公共牧場を活用した生産体系と増頭に取り組み、収益性を向上させている経営も見られる。

(3) 肥育経営は、負債や借入金を抱えている一部には、単年度収支でマイナスにならないものの返済や生産費用の財源不足の例も見られるので、引き続き経営改善の努力と適切な指導が必要である。

生産技術面においては、素牛選定や飼養管理面においても増体を重視する傾向が見られ、また物不足を背景とした早出しの動きもある。こうした対応は肉質の低下が懸念される。

以上のような牛肉生産を取り巻く厳しい環境のもとで生産基盤の強化と安全・安心な牛肉の生産の取り組みに生産者をはじめ関係機関・団体が一丸となって努力していかなければならない。

多様化する業界ニーズに応えトータルな畜産の未来を提案し続けます。



丸善良品株式会社

【支店・営業所】 【北海道】札幌・旭川・北見・帯広・釧路・函館 【東北】青森・八戸・秋田・盛岡・一関・山形・仙台・郡山

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13

TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

盛岡支店: TEL019(638)3291 一関営業所: TEL019(23)2756

平成18年度岩手県獸医畜産業績発表会

岩手県獸医師会長賞

スポットテストによる牛ウイルス性下痢ウイルス持続感染牛を有する群の検出

岩手県中央家畜保健衛生所 関 慶久

1. 緒言

牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）持続感染（PI）牛は生涯にわたり多量の同ウイルスを排泄し、他牛への主要な感染源となることから、牛群から同牛を検出し、除去することがBVDVの重要な防疫対策となる。わが国の幾つかの地域では、PI牛を有する乳用牛群を検出するスクリーニング法としてバルク乳からBVDV遺伝子を検出する方法（バルク乳検査）が応用され、多数の同牛が検出されている。他方、多くのPI牛は粘膜病（MD）や発育遅延を含む様々な障害により繁殖適齢期までに死亡あるいは淘汰される。これらの報告は、産歴を有するPI牛、すなわち泌乳期のPI牛が少数例に止まることを示唆するように思われる。バルク乳検査は効率的なスクリーニング法であるものの、非泌乳期のPI牛のみが存在する牛群を検出することはできず、肉用牛群に応用することもできない。

Houeらは、牛群から抽出された子牛5頭中3頭以上から高いBVDV中和抗体価が検出された際に同牛群内にPI牛が存在すると判定する、いわゆる“スポットテスト”を提案した。同テストはPI牛の泌乳状態に関わらず、牛群内の同牛の存在を評価し得るが、抗体陰性のPI牛が抽出された際に偽陰性の判定を得る可能性がある。著者らは、推計論に基づき、血清中和試験にウイルス分離を組み入れることにより、同課題を克服し得ることを報告した。

この報告では、ウイルス分離を組み入れたスポットテストを岩手県内の26農場に応用した成績を述べ、同テストの精度を検討する。

2. 材料および方法

2005～2006年に、岩手県内で16～84頭を飼養する24酪農場（A-X）および35または45頭を飼養する2肉牛繁殖農場（Y, Z）を対象とした。

各農場から6～12ヶ月齢のBVDVワクチン未接種子牛3頭を抽出し、それらの血清を用いて中和試験およびウイルス分離を実施した。3頭中2頭以上から64倍以上の抗体価が検出された、または1頭以上からBVDVが分離された際に陽性と判定した。スポットテスト後に、26農場の全飼養牛1,182頭のウイルス分離を行い、PI牛の存否を確認した。

3. 成績

スポットテストにより、9農場（A-G, Y, Z）が陽性と判定された（表1）。8農場（A-E, G, Y, Z）の陽性判定は血清中和試験により、他の1農場（F）の同判定は血清中和試験およびウイルス分離の両検査により得られた。飼養牛全頭からのウイルス分離により、8農場（A-F, Y, Z）から12頭のPI牛が検出された。2農場（A, Y）には複数のPI牛が、他の6農場にはそれぞれ1頭の同牛が存在した。PI牛はいずれも検出された農場で生まれ、飼育され続けていた。これらのうち、泌乳期の乳牛は1農場（A）で検出された38ヶ月齢の1頭に限られた。1農場（C）に存在した1ヶ月齢の1頭を含む他の11頭は31ヶ月齢以下の未経産牛であった。

2農場（C, G）の疫学的調査により、過去12ヶ月間に53頭、すなわち1農場（C）から30頭、他の1農場（G）から23頭が死亡、淘汰あるいは売却により移動していた。前者（C）に存在した1頭の育成牛は発育遅延を示し、スポットテストを実施する4ヶ月前の21ヶ月齢時に淘汰されていた。他の52頭にMDまたはPIを示唆する臨床症状は観察されていなかった。

4. 考察

血清中和試験にウイルス分離を組み入れたスポットテストを26農場に応用したところ、PI牛

東北六県・北海道をネットワーク 農畜産の振興に奉仕する動物用医薬品、ワクチン類、機具器材、プレミックス

小田島商事株式会社 本社 0198(26)4151(代)
 花巻 (営) 0198(26)4700(代) 大船渡 (営) 0192(26)4740(代)
 盛岡 (営) 019(638)9551(代) 八戸 (営) 0178(34)2284(代)
 プレミックス工場 0198(26)4726(代) 家畜衛生食品検査センター 0198(26)5375(代) 大館(営)、横手(営)、青森(営)、古川(営)、山形(営)、酒田(出)、福島(営)、新潟(駐)、旭川(営)、札幌(営)、帯広(営)、釧路(出)

が存在した8農場中8農場(A-F, Y, Z)で陽性判定が、同牛が存在しなかった他の18農場中17農場(H-X)で陰性判定が得られた。PI牛を有した8農場は6酪農場および2肉牛繁殖農場から成り、8農場中7農場に存在したPI牛はいずれも未経産であった。得られた成績から、スポットテストにより、PI牛の泌乳状態に関わらず、乳用および肉用の両牛群内の同牛の存在を高い精度で推測し得ることが示唆された。

最高齢のPI牛が2~3ヶ月齢に達するまでは、同牛から同居牛へのウイルス感染が少數例に止まるため、スポットテストにより偽陰性と判定され得る。1農場(C)に存在したPI牛は1ヶ月齢の1頭のみであったが。本農場はスポットテストにより陽性と判定された。同農場には、発育遅延を示す1頭の育成牛がスポットテストを実施する4ヶ月前まで存在していた。ウイルス学的検査成績を欠くものの、同育成牛がPI牛であったことが疑われ、スポットテストの陽性判定には検出されたPI子牛ではなく、同育成牛が影響を及ぼしたように思われた。

PI牛が除去された直後の農場はスポットテストにより陽性と判定され得る。PI牛が存在しない1農場(G)がスポットテストにより陽性と判定された正確な理由は不明であるものの、過去12ヶ月間の移動牛23頭にPI牛が含まれていたかもしれない。

既報のスポットテストを26農場に応用した本調査の結果は、同テストが肉用牛群の一次スクリーニング法として、ならびにバルク乳検査で陰性と判定された乳用牛群の二次スクリーニング法として活用されることにより、BVDVの防疫対策に貢献し得ることを示唆するように思われた。

表1 スポットテスト成績および農場内のPI牛頭数

農場	飼養頭数	スポットテスト			PI牛の頭数	
		抽出子牛	中和抗体価	ウイルス分離	非泌乳期	泌乳期
A	61	1	256	—	1 (31) ^{a)}	1 (38) ^{a)}
		2	1024	—		
		3	2048	—		
B	35	1	1024	—	1 (4)	0
		2	4096≤	—		
		3	4096≤	—		
C	55	1	512	—	1 (1)	0
		2	1024	—		
		3	1024	—		
D	33	1	512	—	1 (21)	0
		2	2048	—		
		3	2048	—		
E	38	1	<2	—	1 (26)	0
		2	1024	—		
		3	2048	—		
F	84	1	<2	+	1 (12)	0
		2	256	—		
		3	4096≤	—		
G	37	1	<2	—	0	0
		2	2048	—		
		3	4096≤	—		
H	38	1	4	—	0	0
		2	8	—		
		3	512	—		
I-X	16-76	1	<2	—	0	0
		2	<2	—		
		3	<2	—		
Y	35	1	1024	—	4 (2-5)	0
		2	4096≤	—		
		3	4096≤	—		
Z	45	1	<2	—	1 (2)	0
		2	64	—		
		3	128	—		

a) 括弧内にPI牛の月齢を示す。

参観デー2007

恒例の県農業センター参観デーが8月下旬~9月上旬の土・日・月を中心に、本部をはじめ県内各研究所で一斉に開催されました。



このうち畜産研究所は8月23日~25日の日程で産業文化センターで開催され研究成果のパネル展示とと

もに農事営農相談も行われました。

営農相談では農家の登録牛の育種価がその場で1頭ごとに分かることあって、訪れた畜産農家は真剣に聞き入っていました。

また「全国農業機械実演展示会」も同時開催され、大勢の来場者は、最近展示され始めた韓国製のトラクターを始め、176社1590台の最新型農業機械の展示、さらには圃場を使っての実演に興味深げに見入っていました。



この冬注意したい 家畜の管理

乳牛

成牛は寒さへの適応性は比較的高いですが、低温時には熱エネルギー源として乾物10～20%を増給することが推奨されています。

一方、子牛は寒さにとても弱く、生後1ヶ月までは特に保温が必要です。敷料が湿っていると体温が奪われたり腹冷えしたりするため、肺炎や下痢などを起こしやすくなります。

寒くなると保温のため牛舎を密閉しがちになるので、畜舎内のアンモニアやほこり、湿気の除去のために換気が必要です。牛床が湿っていると病原菌が増えやすいため、乳房炎や蹄疾患の原因となります。適度の換気をすることで牛床を乾燥させることができます。あわせて、除糞、敷料の交換・補充を行います。

乳牛は1日に30～100リットルの水を飲みます。給水管の凍結防止策も重要です。

肉用牛

低温への適応力は高いので、寒さを気にしないで換気をしっかり行ってください。密閉状態にした畜舎ではアンモニアや二酸化炭素が充満し肺炎などの原因となります。ただ、牛体に直接吹き込んでくるすきま風は体感温度を下げ、下痢や肺炎などの誘因となりますから牛体に直接風が当たらない換気をして下さい。また、牛床が湿っていても体温が奪われます。

一方、子牛は低温には弱く、特に新生子牛では被毛と皮下脂肪が少ないとや体の表面積が成牛に比べて大きくなっていることから寒冷ストレス

に敏感で、肺炎や下痢などにかかりやすくなります。換気やすきま風対策に加えて、子牛が生まれたら体表をタオルで拭き早く乾燥させる、初乳を確実に飲ませる、敷料を充分に用い子牛の腹を冷やさない、保温ジャケットや保温ランプを使用するといった対策をとって下さい。

豚

冬季は特に離乳～肥育期の呼吸器疾患が多発しやすい季節です。予防対策としては、温湿度や換気などの飼養環境を良好に保つことが大変重要です。豚舎内の適正湿度は60%以上と言われています。細霧装置の使用などを検討してみて下さい。温度では、気温が大きく下がり始めたころに事故が多くなっています。天気予報で翌朝の気温を確認し早めの対策をとることをお勧めします。また、体感温度を下げるすきま風を防ぐことも必要です。

分娩舎では哺乳豚の適温にあわせると母豚にとっては暑すぎることになり、摂食量が低下します。保温箱を使うことで母豚と哺乳豚の双方が快適な環境をつくることが必要です。

鶏

空気の乾燥する冬は呼吸器病が多くなります。主な呼吸器病の原因となるウイルスは寒さに強く、夏であれば数時間で感染性を失うのに対し、冬は数日間あるいはそれ以上の期間、感染性が持続します。密閉した鶏舎ではアンモニア、二酸化炭素の濃度が高くなり、呼吸器粘膜の抵抗性を弱め病気に感染しやすくなるとともに、鶏舎に入れた暖房で床が乾燥しほこりが舞い上がることも呼吸器を傷つける原因となります。晴れた日の日中など比較的気温の高い時間帯に換気を行うようにして下さい。

(岩手県中央家畜保健衛生所 衛生課 長山玲子)

「ミルクフェアー2007いわて」 に大勢の参加者

岩手県牛乳普及協会主催の「ミルクフェアー2007いわて」がこのほど「盛岡競馬場OROパーク」で開催されました。

「ミルクフェアー2007」は牛乳乳製品の普及と消費拡大を目的に毎年開催されているが、今年は例年になく残暑が厳しく当日も快晴の青空のも

と、多くの家族づれ等で賑わいました。

会場内には県内の乳牛メーカー等が多数出店し、各地の特色ある乳製品や市価より大幅に安い乳製品の詰め合わせを購入する来場者で賑わいました。

また牛乳乳製品を使った料理教室や乳搾り体験、手作りバター、手作りアイスクリーム等のコー



ナーや子供連れのお母さんや若い女性などが訪れ、さまざまな体験に取り組み、牛乳に対する認識を新たにするとともに、自分で作ったアイスクリームなどの乳製品、手作り料理を味わっています。

した。

乳製品クイズ「ミルククイズ」や「大じゃんけん大会」「牛乳クイズラリー」など様々なイベントに、参加者は思い思いのコーナーで楽しんでいました。

畜産の研究 (52)

ウシ凍結精液への ラクトフェリン(Lf)添加効果

岩手県が製品として供給する牛凍結精液は、1ロットあたり3本以上実施するロット検定で凍結融解後の運動精子数が一定基準を満たしたものであり、基準を満たさない凍結精液はロット毎全て廃棄している現状にあります。一方、精子耐凍能には個体差があるため、これまで耐凍能が低い種雄牛は封入精子数を多くすることで対処してきましたが、製品本数が減少するなどの課題を抱えてきました。そこで精子耐凍能が極めて低い種雄牛2頭を用いて、凍結精液へのLf添加が凍結融解後の運動精子率に及ぼす影響について検討しました。その結果、凍結融解後の運動精子率は、Lfを添加することで18.7%から31.6%に増加し、生

存率も24.6%から42.6%と有意に高くなりました(表)。また1歳齢の試験交配種雄牛6頭を用いた試験でも、凍結融解後の運動精子率を高めることができ明らかとなったことから、種山畜産研究室では全国に先駆けて全ての種雄牛にラクトフェリンを添加した凍結精液を生産供給しております。

表 耐凍能が極めて低い種雄牛へのLf添加効果

種雄牛 ID	区分	試験 回数	運動精子率 (%)		生存率
			射精直後	凍結融解後	
A	添加前	7	77.3	21.7	28.1
	後	12	77.8	36.9	47.4
B	添加前	7	74.7	15.7	21.0
	後	12	70.3	25.8	36.7
合計	添加前	14	76.0	18.7	24.6 a
	後	24	74.2	31.6	42.6 b

※ a, b 異符号間で有意差有り ($P < 0.01$)

生存率: 凍結融解後の運動精子率 / 射精直後の運動精子率 × 100

(岩手県農業研究センター畜産研究所 種山畜産研究室 児玉英樹)

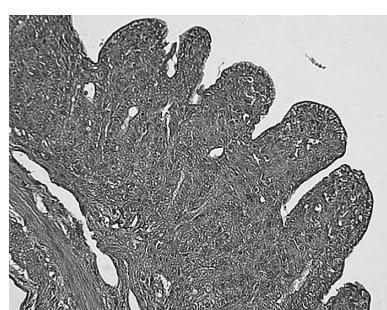
家畜の保健衛生 (52)

豚伝染性胃腸炎・流行性下痢

豚伝染性胃腸炎(TGE)と流行性下痢(PED)は下痢を主徴とする豚のウイルス病です。両疾病の原因ウイルスは異なりますが、発生状況と臨床症状は酷似します。すなわち、両ウイルスは急速に伝播し、感染豚は高率に発病して激しい水様下痢を示します。哺乳豚の死亡率が高い(出生直後では100%)ことも特徴のひとつです。感染豚の小腸絨毛は萎縮し、この病変により回復後も発育が遅れます。両者の混合感染もしばしば起こります。岩手県では平成8~12年にかけて哺乳豚を中心に16,000頭が発病し、うち1,700頭が死亡しています。

近年、本県での発生はなく、平成18年と19年

に実施した肥育豚855頭の抗体検査でも感染豚は検出されていません。しかし、近年、近隣県で小規模ながら散発しており、本県でも再流行が危惧されます。両疾病が流行しやすい冬季に向けて、消毒を含む衛生管理を徹底し、農場内へのウイルスの侵入を防止することが重要です。ワクチンにより被害の低減が期待できますので、とくに人や豚の交流が頻繁な農場や過去に本病が発生した農場では検討する必要があります。



(岩手県中央家畜保健衛生所病性鑑定課

TEL 019(688)4111)

(社)岩手県農政経済研究所

020-0021 盛岡市中央通三丁目7番1号 019-651-7137

理 事 長 小笠原一行

副理 事 長 中野 昌造

常務理 事 吉田 一美 他役職員一同

—平成18年—

去勢若齢肥育牛生産費 (岩手県)

1. 生産費

(1) 生産費の動向

肥育牛(去勢若齢肥育)1頭当たり生産費(副産物価額差引)は896,994円で、前年に比べ46,461円(5.5%)増加し、全算入生産費は941,203円で55,729円(6.3%)増加した。

これは物貯費のもと畜費が37,631円増加したことが影響している。

(2) 主要費目の動向

ア. もと畜費は494,647円で前年に比べ8.2%増加した。これは、もと牛導入時期

3. 肥育牛(去勢若齢)生産費調査の結果

(肥育牛一頭当たり)

(単位:円)

費目	平17	平18	
物財費	752,684	793,813	
もと畜費	457,016	494,647	
飼料費	226,889	226,906	
うち流通飼料費	224,814	224,223	
牧草・放牧・採草費	2,075	2,683	
敷料費	7,402	7,313	
光熱水料及び動力費	6,991	7,319	
その他の諸材料費	299	284	
獣医師料及び医薬品費	7,859	7,508	
賃借料及び料金	5,462	6,492	
物件税及び公課諸負担	8,410	8,607	
建物費	15,364	14,837	
うち償却費	9,111	11,990	
農機具費	14,038	17,424	
うち償却費	6,676	8,580	
生産管理費	2,954	2,476	
労働費	117,447	123,021	
うち家族	112,170	116,345	
費用合計	870,131	916,834	
副産物価額	19,558	19,840	
生産費	副産物価額差引	850,573	896,994
	支払利息・地代算入	875,259	928,810
	全算入	885,474	941,203

(主に平成15年8月~16年7月)の価格が上昇したことによる。

イ. 飼料費は226,906円で、前年とほぼ同額で推移した。

ウ. 労働費は123,021円で、前年に比べ4.7%増加した。これは飼料調理等の労働時間が増加したことによる。

2. 収益性

- 肥育牛1頭当たり粗収益は950,167円で、前年に比べ7.0%増加した。これは主産物の肥育牛販売価格が上昇したことによる。
- 肥育牛1頭当たり所得は117,862円で、前年に比べ11.8%増加した。これは生産費が増加したものとの肥育牛販売価格が大幅に増加したことによる。

4. 経営及び生産概況

区分	単位	平17	平18
た一戸り当	農業就業者	人	1.7 1.8
も一頭當たり畜	年間月平均飼養頭数	頭	22.7 23.2
肥一頭育当たり牛	年間販売頭数	ヶ	15.2 12.2
二勞一頭當たり時間	月齢	月	9.6 9.5
二收一頭當益性	生体重	kg	300.4 299.8
一労一頭當たり時間	価格	円	455,862 485,165
一労一頭當たり時間	販売時生体重	kg	702.0 704.4
一労一頭當たり時間	販売価格	円	868,504 930,327
一労一頭當たり時間	肥育期間	月	20.0 20.3
一労一頭當たり時間	労働時間(うち家族)	時間	90.62(85.21) 92.75(85.03)
一労一頭當たり時間	飼料の調理・給与・給水	ヶ	54.21 55.65
一労一頭當たり時間	敷料の搬入・厩肥の搬出	ヶ	20.71 20.95
一労一頭當たり時間	手入・運動・放牧	ヶ	4.15 4.09
一労一頭當たり時間	生産管理・その他	ヶ	6.71 7.17
粗収益	円	888,062 950,167	
生産費総額	ヶ	905,032 961,043	
所得	ヶ	105,415 117,862	
1日当たり所得	ヶ	9,897 11,089	
家族労働報酬	ヶ	95,200 105,469	
1日当たり家族労働報酬	ヶ	8,938 9,923	

小ロットのオンデマンド印刷から
大量商業印刷まで

各種印刷・ドキュメント処理・アンケート調査支援



小松総合印刷株式会社

岩手県盛岡市鉢屋町15-4 TEL(019) 624-1374 FAX(019) 623-6719
E-mail:mail@komatsu-gp.com URL: http://www.komatsu-gp.com



地域の話題をお届けします

現地情報

盛岡地区

乳牛を転作草地に放牧

～葛巻町、八幡平市～

県南地方を中心に、遊休農地や転作草地を活用した和牛の放牧が増えてきていますが、葛巻町や八幡平市では乳牛を転作草地に放牧しています。

葛巻町では、この推進に当たり産地づくり交付金を活用し、転作草地に牧柵の資材助成をしています。

昨年度は、酪農家2戸、和牛農家4戸の計6戸が約2.7haの転作草地に電気牧柵を設置し、牛の放牧を始めました。今年は、1番草を収穫後、2番草が20センチ程度になった6月下旬から、搾乳牛を朝の搾乳後からお昼頃までの2時間程、天候や草勢を見ながら放牧しています。設置した農家は、放牧した牛を見ながら、「乳牛の四肢の運動や蹄にも良く、以前ヨーロッパで見た風景が再現できた。」と、その出来映えと効果に満足しています。

今春、八幡平市では、新規就農した若い酪農家も電気牧柵を設置しました。コストを抑えるため、支柱

は、稻作農家から使わなくなった稲の“はせ掛け用の杭”を分けてもらいました。現在は育成牛だけの放牧ですが、搾乳牛舎から誘導通路柵も整備しており、今秋からは成牛も放牧を予定しています。

転作田放牧は、給餌や糞尿処理、牧草調製の作業が大幅に軽減されることや放牧期間中の貯蔵飼料の使用が少量で済むこと、また繁殖性の向上が期待される等のメリットがあります。今後も普及センターでは、予定圃場の図面作成や必要資材の算出、現地での牧柵設置等を支援していきたいと考えています。

(八幡平農業改良普及センター岩手駐在 渡邊嘉紀)



八幡平市転作草地の育成牛



葛巻町転作草地の搾乳牛

肉じゃがのルーツは西洋料理?



ティータイム

県庁前の桜山様に南部藩時代の名残の大きな「釣鐘」があり城下町盛岡の風情に一役買っている。

そのすぐそばに同名の一杯飲み屋があり、その店の肉じゃがは昔懐かしいおふくろの味なのである。

ところで肉じゃがの肉は牛肉か豚肉か?。はたと考えさせられる。

つまらぬ事に頭を悩ませると思われる御仁もおられると思うが、街の飲み屋や食堂に「肉じゃが」の張り紙がしてあって、てっきり牛肉だと思って注文した客があったとしよう。

出てきた肉じゃがの肉が豚肉だったら文句を言おうと思ったら言えなくも無い。つまり「片手落ちのネーミング」といわなければならぬ。ちなみに肉とジャガイモを使ったフランスの「ポーク・ア・ラ・ブルンジウェル」は頭にはっきりと“ポーク”と断っているから、料理名を見ただけで“豚肉とジャ

ガイモの蒸し焼き”と一目瞭然なのである。

ところが我が肉じゃがは何の肉なのか調理方法はどうかとんと解せない。同じく豚肉とジャガイモでもそれを煮物にしたら「肉じゃが」つぶして油で揚げたら「コロッケ」となる始末である。

さて本題の肉じゃがのルーツをひも解いてみると、肉じゃがといえば、おふくろの味、家庭料理の定番であるが、肉じゃがのルーツが西洋料理の定番である「ビーフシチュー」と聞けば「ん?」と関心を持たざるをえない。

明治の初め頃日本海軍の提督東郷平八郎がイギリス留学時代に食べた「ビーフシチュー」の味が忘れられず、料理長に「ビーフシチュウ」を作れと命じた。

ビーフシチューなど知らぬ料理長はデミグラスソースの変わりに砂糖と醤油を用いて悪戦苦闘の末作り上げたのが肉じゃがだったのである。

以後肉じゃがは「洋食の代用食として効果的に牛肉を摂取する画期的料理」として帝国海軍で大いにもてはやされたのである。

おふくろの味とも言うべき日本料理のルーツが「ビーフシチュウ」だったとは「縁は異なるもの」である。(s)

いわて食と観光フェスタ2007開催

岩手ならではの食と自然豊かな観光を全国に発信する「いわて食と観光フェスタ2007」(県などの実行委員会が主催)9月28日~30日の3日間、が零石町の小岩井農場で開催され、大勢の家族づれ等で賑わいを見せました。



開会式で達増岩手県知事は「岩手が誇る安全安心でおいしい農林水産物や特産品を3日間の大収穫祭で存分に堪能して欲しい」と挨拶、紫波町のもち米生産者らで組織する「モチモチ王国紫波ひめ隊」が餅をつき、達増知事らによって来場者にふるまわれました。

このフェアは「岩手ならではの食」と「自然と文化豊かな観光」を全国へ情報発信するため、本県の農林水産業、商工業、観光産業が一体となって開催したもの。



農業団体や企業などから県内各地の特産品を販売したり郷土料理を味わえる126のブースが出展され、来場者はそれぞれの地域の特色を生かした出品物や料理を堪能していました。またさんざ踊りや鬼剣舞等県内各地の郷土芸能やNHKの朝のドラマで一躍有名になった「じゃじゃ麺」のコーナーなどにもぎわっていました。

畜産関係のコーナーでは、いわて牛普及推進協議会をはじめ県の養豚、養鶏、ブロイラー、牛乳等の各種協議会が肉の試食や牛乳の試飲等を行い、長い列が出来るほどの盛況ぶりでした。

いわて牛のコーナーでは県内産の黒毛和牛、いわて短角和牛が販売され、関係者はいわて牛の串焼きを焼きながら「豊かな自然にはぐくまれ、農家が丹精をこめて育てたいわて牛を味わってほしい」とPRしていました。

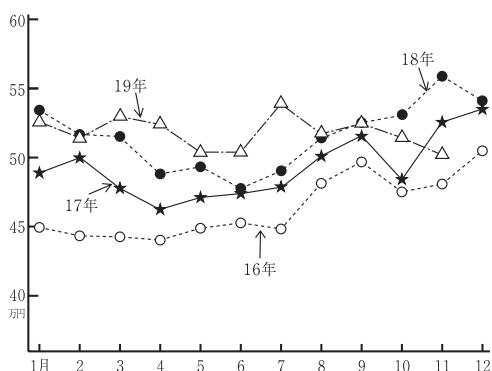
さわやかな青空のもと、家族づれや県外から大型バスで訪れた観光客等約48,000人の来場者は、秋晴れの岩手山を見上げながら、岩手の多彩な恵みを丸ごと満喫していました。

平成19年11月和牛子牛市場成績〈税込〉

(全農岩手県本部)

市場 (月日)	上 地	場 域	性 別	頭 数	最 高 (円)	最 低 (円)	平 均 (円)	平均 体 重	kg当 単 価
県南 11/7 (木)	胆 氣	江 仙	♀	172	790,650	310,800	476,297	276	1,724
			♂	224	762,300	243,600	541,041	309	1,748
			計	396	790,650	243,600	512,920	295	1,738
県南 11/8 (木)	磐 井		♀	159	694,050	231,000	461,399	274	1,686
			♂	1	596,400	596,400	596,400	312	1,912
			計	387	714,400	176,400	549,400	309	1,781
			計	451	697,200	178,500	501,590	289	1,733
中央 11/14 (木)	新 岩 手		♀	185	690,900	178,500	465,842	275	1,696
			♂	1	563,850	563,850	563,850	337	1,673
			計	265	697,200	181,650	526,312	300	1,757
			計	451	697,200	178,500	501,590	289	1,733
中央 11/15 (木)	遠 久	野 戸 慈	♀	176	641,550	234,150	429,217	278	1,544
			♂	256	719,250	198,450	532,165	310	1,715
			計	432	719,250	198,450	490,224	297	1,650
中央 11/16 (金)	盛 紫 宮 花 北	岡 波 古 巻 上	♀	143	640,500	212,100	425,536	275	1,548
			♂	186	722,400	325,500	544,250	308	1,764
			計	329	722,400	212,100	492,651	294	1,676
合 計			♀	835	790,650	178,500	452,527	276	1,642
			♂	2	596,400	563,850	580,125	325	1,788
			計	1,158	762,300	176,400	537,862	307	1,752
			計	1,995	790,650	176,400	502,188	294	1,709

子牛価格の推移(過去3年)



平成19年10月岩手県内指定家畜市場取引成績

(社)岩手県農畜産物価格安定基金協会

区分	指 定 肉 用 子 牛		
	頭 数	金 領	平 均 価 格
黒毛和種	頭 1,299	円 641,422,950	円 493,782
褐色和種	2	637,350	318,675
日本短角種	490	135,550,800	276,634
ホルスタイン種(雌を除く)	2	109,200	54,600
交雑種・乳	18	2,922,150	162,342

(注) : 金額、価格は消費税込み